

## 大島 登志彦 教授

### 【おおしま としひこ】

1954年群馬県生まれ。工学部や教育学部・教育学研究科に在学して学んだ後、高等学校、高等専門学校での勤務を経て、1999年から本学経済学部勤務。



- 交通論Ⅱ
- 日本地誌
- 世界地誌

# 公共交通に、ロマンを感じつつ……

経済学部の授業では、日本地誌と世界地誌、交通論ⅠⅡ、そして大学院では交通論の講座を担当しています。専門分野は、歴史を重視して地域を学ぶ視点から、鉄道や路線バスを主体とする公共交通の変遷と地域の関わり、地域の産業史とその遺産などを題材とした歴史地理学、交通地理学です。

地域住民の足となる公共交通は、有識先人達が、明治から昭和初期にかけて苦勞を重ね、私財も投じながら開業にこぎつけた路線が多い中で、地方都市や中山間地域では、戦後の高度経済成長期以降のモータリゼーションの影響などによって利用者は減少して、一部が、廃止されたり現在存廃の危機にあります。しかしその一方で、高崎市の循環バス「ぐるりん」にみられるように、多くの自治体がコミュニティバスを運行し始めるなど、公共交通の重要性が叫ばれています。また、群馬県における産業経済の発達の基盤にもなった製糸工業を初めとする近代初期の鉱工業は、衰退して取り壊された施設も多い中で、群馬県が富岡製糸場の世界遺産登録を目指すなど、地域の産業遺産の社会的価値が認知されるようになりました。私の研究及び授業・ゼミナールでは、日本が貧しかった時代に構築されてきた公共交通や産業遺産について、ロマンを感じながら、先人の苦勞の軌跡や時代的背景などを学びとって、現在における存在意義を認識することから展開される調査研究を目指しております。

ゼミ生のひとこと



大島ゼミでは地域交通の盛衰と沿線地域の関連性などについて、実際に現地へ赴いて勉強する臨地研究を行なっています。学生にとって非常に難しい問題に対しても、先生から熱意あるご指導を頂き、実際に机の上だけでは分からない、五感を使って「現実」を学ぶことができました。

大島ゼミ 高橋 智恵